

令和元年度 真津山小学校 学校評価報告書

※ 高評価5項目、最低評価1項目

※中間値は 2.5

■自己評価のまとめ(分析・課題・対策等)

評価項目	番号	評価内容	児童	地域	保護者	教職員	平均	評価
人を思いやる優しい (徳育)	1	いじめや差別、不登校のない集団づくり	3.36	3.75	3.22	3.52	3.42 ↗	A
	2	「和顔愛語」を奨励して思いやりと感謝の心を育み、人権意識の高揚に努めたか。	3.30	3.75	3.22	3.52		
	3	あいさつ・言葉遣い(マナー)、規範意識(ルール)などの継続的な指導	3.27	3.56	3.24	3.54		
	4	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じた豊かな心を育む指導	3.21	3.63	3.24	3.54		
	5	個人面談・教育相談等を通じた児童理解と親身な指導	3.31	3.57	3.38	3.24		
心も体も元気 (体育)	1	登下校ルールなどの交通安全や、校内事故防止などの安全の継続的な指導	3.46	3.80	3.38	3.32	3.38 →	A
	2	子どもたちの外遊びや体力づくりについての継続的な指導や励まし	3.46	3.43	3.35	3.13		
	3	望ましい生活習慣(早寝早起き・メディアコントロール等)の継続的な指導	3.16	3.57	3.38	3.00		
	4	健康増進の習慣づくり(歯みがき・手洗い・うがい等)のために継続的な指導	3.41	3.67	3.38	3.12		
	5	望ましい食習慣づくりのための給食指導を中心とした食育	3.46	3.57	3.41	3.09		
自ら学び表現する (知育)	1	学習指導要領を踏まえた指導の工夫改善	3.34	3.80	3.27	3.35	3.32 ↗	A
	2	問題解決的な学習、探究的な学習、交流活動など子どもを主体者とした授業づくり	3.36	3.50	3.30	3.04		
	3	授業の終始や学習準備、姿勢などの学習規律の定着のための継続的な指導	3.33	3.43	3.27	3.37		
	4	遅れがちで、個別に支援を要する子どもへの対応	3.41	3.33	3.27	2.92		
	5	学年に応じた家庭学習の習慣づけのための継続的な指導や励まし	3.40	3.20	3.19	3.35		
家庭との 連携	1	連絡帳、電話連絡、家庭訪問などによる家庭との相互理解・連携	↘	3.40	3.32	3.43	3.36 →	A
	2	学校だより・学級だよりなど、学習の様子や諸活動についての発信	↘	3.75	3.38	3.00		
	3	家庭学習の習慣づくりや家庭読書、メディアコントロールなどについて、継続的に家庭に働きかけ	↘	3.63	3.38	2.91		
	4	懇談会や保護者との面談においての家庭教育を考えるきっかけづくり	↘	3.71	3.38	3.09		
教育環境	1	施設の定期的点検と処置、日々の継続的な安全指導	↘	3.63	3.38	3.36	3.34 □	A
	2	校舎内外の清掃、整理整頓、学校の美化	↘	3.56	3.32	3.22		
	3	季節に応じた掲示物の工夫など、温もりのある学習環境づくり	↘	3.50	3.35	2.96		
	4	プランターや花壇、学習園を活用した、潤いのある環境づくり	↘	3.40	3.35	3.00		
教職員 チーム	1	「どの子どもも愛し、どの子どもも伸ばす」教育愛と使命感を持った職務遂行	↘	↘	↘	3.50	3.38 →	A
	2	「同僚とともに研鑽に励む」意識での研修と授業実践	↘	↘	↘	3.48		
	3	P T A活動等への協力と、「信頼される教師」であることへの努力	↘	↘	↘	3.15		
	4	職員相互の連携・協力を意識した、一体感のある職員集団づくりへの参画	↘	↘	↘	3.39		
子どもの 姿	1	あいさつや思いやりの言動ができる「人を思いやる優しい子」	↘	3.45	3.24	↘	3.42 ↗	A
	2	授業・家庭学習にまじめに取り組む「自ら学び表現する子」	↘	3.56	3.32	↘		
	3	自他の生命を大切にし、進んで体を動かす「心も体も元気な子」	↘	3.44	3.22	↘		
	4	子どもは、毎日楽しく学校に通っている。	↘	3.73	3.38	↘		
学校満足 度	児	真津山小学校は、毎日楽しく、いい学校だ。	3.60	↘	↘	↘	3.51 →	A
	地	真津山小学校は、「地域が応援したい」いい学校だ。	↘	3.90	↘	↘		
	保	真津山小学校は、「子どもを通わせたい」いい学校だ。	↘	↘	3.30	↘		
	職	真津山小学校は、「働きがいのある」「働きやすい」学校だ。	↘	↘	↘	3.26		

○各項目の評価数値から概ね良好な学校生活を送っていることがわかる。地域・保護者から見た「子どもの姿」は前年度比+0.18と、高い評価を受けた。

○保護者・地域の最低評価項目でも、3.19と3.20で、学校運営についての外部からの理解も高い。特に地域から「応援したい学校(3.90)」と、高い評価をいただいているので、今後も地域の期待に応えていきたい。

○情報提供について高評価を受けているので、ホームページやスクールネットの活用を一層進めていく。

●教職員の数値が低い項目から、児童の学習習慣や生活習慣の向上への関わりをもっと図りたいという思いが読み取られる。また、遅れがちの子どもに一層手厚い支援を行いたいという反省も見られる。

●より良い習慣づくりの継続的な指導、個に応じた細やかな指導が可能になるように、保護者や地域の理解を得ながら教職員が働きやすい職場づくりを進め、児童のよりよい成長へと還元していく。

■学校関係者評価の意見

□ 子供の個性によってあいさつには個人差があるので、大人側からのあいさつを継続していく。

□ 学校の研修努力は前提としながらも、学力向上のためこ入れとして、学習支援ボランティアなど地域人材の活用も検討すべきではないか。

□ 働き方改革の一方策として、通知表所見欄の見直しは、保護者の理解を得ながら推進していくべきと考える。個人面談については、意義のあるものになるように努めてほしい。

■対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

◇ 学校内外のあいさつ指導は、今後も力を入れて継続していく。

◇ 他校の取組を参考にしながら、学習支援が可能な地域のボランティア人材の発掘に努め、募集を考えていく。

◇ 通知表所見欄の見直しによる働き方改革は、保護者の理解を得て、西諫早中学校区3校で推進していく。個人面談は、保護者・教師双方にとって意義のあるものにしていく。